ゝる自覺心は、永年に亘りて訓練された、學習態度の永續的傾向である故に、中學四、五年時代からも早、教授の理想は、眞に彼等が體育と言ふことについて自覺し、自發的に活動する樣な狀態でなくてはならぬ。而して、本期の體育をしてかゝる理想にまで、到達せしむるには、知的道德的に可なりの發達をした六年位より訓練せられた、自覺的着色をなした體育指導の賜である。急激にかゝる訓練を受けない、本期の學生にかかる教法を要求しても、到底その目的を達することは出來ぬ。中學の本期の學生の活動をして、自覺的にするには、右の樣な主觀的の要件も必要であるが又、彼等の實際生活を省みて、教材の配合及教法の適用等に關する、客觀的の要件も亦必要なことである。今彼等の實際生活について述べそして客觀的要件の意義を明にしやうと思ふ。

ロ、彼等の實狀

彼等の身體は、殆んど完成の域に達したと見てよい。而して、活力は充滿して、或る程度の鍛練的のことを要求する時代である。其の心理的方面に於ても、一の理想を構成して活動する樣になる。(前述參照)而してその活力と意氣と、感情とは、正當な理性の支配を破壞して、空想を畫くものである。それ故その活動たるや、自己活動であつて、依賴的、他律的の活動を要求しないものである。かく心身共に、完成の域に達したとは言へ、彼等に與へられる負擔は決して輕いものではない、就中精神的の負擔が過半を占めてゐる。彼等の一日の過半の生活は、學校生活であるが、其の學校生活の殆んどは、精神的の勞作である。特に本邦現時の教育制度は、收容學校と志望者との均衡を保つことかたく從つて入學難の問題を生じてゐる。故に彼等の努力は先づ、當面の目的たる、受驗合格と言ふことに向つてゐる。而して其の當面の目的は、目前に迫つてゐるから、彼等は孜々として、其の準備に努力してゐるものである。前にも言つた樣に、身體は最も旺盛な狀態となり、その活氣は余程注意して指導しなけれ

ば、却つて訓練上、面白がらざる方面に發動するものであることを注意せねばならぬ。今彼等の生活は、學校生活が主であるが、その學校生活を、屋内に於る生活と、グランドに於る生活とに分けたと假定したならば、屋内生活は、拘束的、努力的、緊張的、壓迫的の生活である。この壓迫的身心の狀態を、發散調和するところは、唯一のグランドである。本期の學生に於る、グランドの生命と言ふものは、一つは合理的、科學的、しかも自覺的に心身を訓練する場所たるのみならず、一方には彼等の實狀より觀察して、屋内生活に於る、緊張せる身心を解弛、調和する點に於て、有することを斷言する。故に、本期の體操教授には、科學的に、合理的に、自覺的に、彼等の身心を訓練すると言ふ外に、この壓迫的の感情を發散せんとする教法の採用を必要とする理由である。而るに體育は一定の目的を有する、教育的教材にして、被教育　の慰安物でないことは、余も萬々承知してゐる。この意味を、加味した教法は確かに眞の體育の目的を達する上に於ても、亦、學校訓練上より見ても、有意義なことを自信するものである。屋内生活に在迫的である時代、運動場に於ても、從來の教法の樣に、意思的拘束的な教法のみを採用する時は、彼等の在迫的、身心狀態をいづこに彼等は發散して調和するかが考へものである。そこに體育指導者の人格上にでも缺陷あると直ちに、その在迫的狀態は、體操教員そのものに向つて衝突して來る。之れ通常行はれるところの、ストライキの原因であること、ダンスの社會的意義に於て直べた通りである。感情を發散するの方法として、音樂もあらふ。又他の慰安物もあらふ而し彼等の現在を考へ、又將來を考へ、且亦彼等の身心の狀態を顧慮するとき活動的運動は、最も適切なるものと言はねばならぬ。それ故その正式の體育も從來教法の樣に、拘束的にてはいかぬ、而し體育をして慰安物にせよと言ふのでもない。ここに一の方法を構ずることの大切なるを感ずるのであるが、これ余の提供する教授法の生命の存するところである。

ハ、各教材適用に關する意見

體操

體操の實施には、彼等の知力、意力の緊要なることを言つた。而して六年位より、自覺的の色彩を帶びた、體育は、この期に至りて眞に自覺的に體育を實施せねばならぬ。故に體育はこの期に於ては理論的に教授するを要する。而して如何にして科學的に自己の身體を修練するかについての、知識を附與することの大切なることである。而して此の期は最も訓練上困難な時期であつて、知的に、身體的に充分の發育をなす生氣あるに反し、理性の働と言ふものは、高潮したる感情によつて障害され易いものである。故にその指導を善良ならしめねば、彼等は強いて惡い方向へ進む傾向をとつてゐる。それ故教師は、人格的に彼等の意志を善良なる方向に指導することが大切である。規律的訓練等は最も大切なものである。而して、彼等は事物の判斷力に富んでゐるから、體操中心主義教授法、及リズミカル中心競技中心を交替させる時はその變化を最もよく感じ、規律的訓練（徹底的な）にも一つの快感を感ずるものである。それ故體操及教練の如き教材は、最も重要視することが大切である。故に本期の教法は體操中心と競技中心とを半々に課する方が最もよい。

教練

體操に同じく重要視するものにして、教練としての時間を特設するの必要を見る。

競技

本期の學生の實態は前に述べた通りであるから、意志的拘束的な、從來の教法の樣なものゝみでは不合理である。彼等は自由活動、自己活動を好む、而して知識も大に發達し、力もあるるら、物を自力にて支配し、且つ自己の身心の力を自己にて試みんとすることには、大いに快感と興味を持つものである。而

して競技は鍛練的の性質をもつてゐるから、最も本期の學生に適材と言はねばならぬ、故に余は彼等の實狀と本教材の特質とを研究して、最も適材として體操と同じく、重要視するものである。

リズミカル教材

前に述べた樣に、本期の體育に適用なし。

ニ、教法

體操中心主義、競技中心主義教法を均等に採用し、リズミカル教材を中心としたるものゝ採用をみとめず。

附錄

（教法と時間配當歩合）

教法＼學年	一	二	三	四	五	六	中一	中二	中三	中四	中五
體操教練 男	一	三	五	六	七	七	七	六	五	五	五
中心教授 女	一	二	五	六	七	五	五	五	五	五	五
競技複雜 男	○	○	○	○	○	三	三	四	五	五	五
競爭遊技 女	○	○	○	○	○	一〇	一	一	一	一	一
中心教授 男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リズミカル教材中心教授 女	九	八	五	四	三	四	四	四	四	四	四
リズミカル教材中心教授 男	九	七	五	四	三	○	○	○	○	○	○

大正十四年七月廿三日印刷
大正十四年七月廿五日發行

現代體育教授法奥付
定價金貳圓參拾錢

著者　宮原義見

發行者　東京市麹町區麹町四丁目二十一番地　福井佐一郎

印刷者　東京市麹町區麹町三丁目二十一番地　塚原豊

印刷所　春陽印刷所

不許複製

發行所　東京市麹町區麹町四丁目廿一番地　さゝや出版部

276
357

終